

国内情報

熊本で和牛改良講演会を開催

熊本種雄牛センター 西村 祐枝

令和7年7月4日、熊本県上益城郡の東海大学阿蘇くまもと臨空キャンパスにて、熊本種雄牛センター主催「令和7年度和牛改良講演会」を開催しました。当日は、九州全県から約130名の生産者・関係者の皆様に加え、東海大学農学部の学生の皆さんにもご参加いただきました。

内容は、当センターの永井による「平準化事業の概要及びR03現検前期新規種雄牛紹介」、そして、株式会社三重加藤牧場の加藤勝也代表には「牛とともに歩んだ40年～三重加藤牧場と持続可能な畜産経営～」と題して講演を行っていただきました。

三重加藤牧場は、昭和39年に養豚経営から始まり、昭和55年には黒毛和種繁殖肥育一貫経営にも取り組み始めました。そして、昭和62年に先代から加藤勝也氏へと経営継承し、一代で繁殖牛約500頭、肥育牛約1,000頭までに規模拡大を進めていらっしゃいました。当団の現場後代検定協力牧場であるとともに、種雄牛造成に積極的に取り組んでおり、令和7年度後期までに候補種雄牛を18頭生産しています。そのうち、「福増秀」・「伊勢之鶴」・「伊勢之舞」の3頭は当団の供用種雄牛として選抜されています。講演では、経営継承後から現在に至るまでの様々な取り組みについて、経験談や経営理念を動画も交えてご紹介いただきました。同牧場では、「健康で、強く、無駄のない牛を目

指し、日々積極的に育種改良を進めている」とのこと。具体的には、牧場内の黒毛和種繁殖雌牛のゲノミック評価を実施し、能力が高い雌牛から積極的に採卵・移植をされているそうです。また、3頭に続く種雄牛候補を造成するための取り組みについても語っていただきました。

加藤氏は地域資源の循環にも力を入れていらっしゃるようで、耕種農家から稲わらや麦わらを収集し堆肥と交換する耕畜連携に積極的に取り組むことで、飼料コスト削減と環境負荷の軽減を実現されています。「地域内の稲わら収集面積が増える→必要な堆肥が増える→増頭する→更に稲わら収集量を増やす」という循環を実現し、地域での耕畜連携体制を築かれてきました。また、近隣の住宅街への配慮として、母子分離時の鳴き声対策のため出生後3日目での早期の母子分離の実施、ハエ対策のため自らが薬品会社に相談しての駆虫プログラム作成など、様々な対策を行われているとのことでした。他にも、農場内の清掃の徹底、良質堆肥の生産といった環境問題対策にも積極的に取り組まれているそうです。

最後になりますが、お忙しい中ご講演いただいた加藤代表ならびにご参加いただいた皆様に御礼申し上げます。

